

東邦大学医療センター大森病院臨床研修プログラム

大森・選択専攻科目

東洋医学科（1～9ヶ月）

1 目的と特徴

日本の伝統医学である東洋医学は、今後必要不可欠な基本的医療となっていくと考えられる。また五感に基づく東洋医学の診療方法は、医師と患者のコミュニケーションの基本でもあり、すべての科にとって必要な事と言える。

東洋医学によって診断治療の幅を広げ、多様な患者様にとって最適な医療を提供することが目的である。

2 プログラム管理運営体制

東洋医学科スタッフ会議にて、本プログラムの管理・運営を検討する。

プログラムの内容や運営に問題が生じたときには、会議の上で修正変更を行い、スタッフ会議で承認を得る。

3 教育課程

3-1 研修期間と研修医配置予定

選択専攻での研修期間は1～9ヶ月である。

東邦大学医療センター大森病院東洋医学科外来に配置される。

3-2 到達目標

3-2-1 行動目標

- 1) 一般臨床医として必要な東洋医学の基本的知識、診断技術、診療の基本的姿勢や態度を修得する。
- 2) 様々な疾患に接する事を通して、患者を全人格的に把握し、その苦痛や希望を理解する。

3-2-2 経験目標

3-2-2-A 経験すべき診察法

- 1) 東洋医学的問診方法を行う事ができる。
- 2) 舌診・腹診・脈診などを行うことができる。特に前二者を完全に習得する。
- 3) 針灸治療について理解し、重要な経穴を取穴できる。また鍼と灸を行うことができる。

3-2-2-B 経験すべき症状、病態、疾患

- 1) 東洋医学の基本的生理観・病態観を習得する。基本的生理観とは、陰陽五行論・気血理論・臓

腑理論などであり、基本的病態観とは、発病の機序・虚実寒熱各証・病邪理論・臓腑の病症・傷寒論の基本的内容などである。

- 2) 約100種類の重要な生薬の効能・服用方法・副作用などを習得する。
- 3) 約40種の基本的漢方処方 of 効能・構成生薬・適応などを習得する。
- 4) 重要な東洋医学的病態像“証”を組み立てる事ができる。
- 5) 傷寒論などの古典医学漢文、更には中国語文献などに慣れる。

3-2-3 評価基準

一般臨床医に必要な東洋医学の診察能力・漢方方剤運用能力が習得されたかを基準として評価する。

3-3 勤務時間

研修期間中の勤務時間・休暇・当直に関しては東邦大学医療センター大森病院の規定に従うが、勤務時間は原則的に午前9時から午後6時である。

しかし勉強会・症例検討会・講演会などは勤務時間外にも行われる。

3-4 教育行事

- 1) 指定図書による自己学習を行う。
- 2) 外来の陪診により、診断技術を習得する。
- 3) 初診患者の問診を行い、担当医と共にその病態・適応方剤を検討する。
- 4) 毎週一度、系統的な東洋医学理論の講義を行う。
- 5) 研究会・症例検討会・学外講演会などに参加し討議する事で理解を深める。

3-5 指導体制

本プログラムの最終的な指導責任は、東邦大学医療センター大森病院東洋医学科の指導責任者にある。

研修医は外来に配属され、外来担当医の下で指導を受ける。

また研究会・症例検討会参加時には指導責任者より指導を受ける。

4 研修医個別評価

研修期間の中間期に指導医により、研修課程の評価を行い、研修目標の達成度を確認する。

確認は口頭、或いは筆記により行う。

目標に到達していない内容は、研修を見直し、到達目標が達成可能なように調整する。

研修修了時には、東洋医学の知識・態度・診察技術などにつき、指導医が総合的に評価を行う。